はじめに

本書は，共通テストの空欄補充問題について，解答時間を短縮し得点をアップすることにつなげようという主旨の本です．

共通テストは，センター試験と同様に，きちっと数学の勉強をしている人が時間をかけて慎重に解いていくならば，正解に達するようなものばかりです．入試の基本～標準レベルの問題で構成されています．しかし，数学に相当な自信がある人でも，満足するような点はとりにくいでしょう．その大きな理由は，問題文が長く，試験時間のわりに，処理しなければならない問題が多すぎることです．

時間短縮のためには，形式を逆手にとるしかないでしょう．数学の問題というものは，もともと穴埋め形式でなくても解けるように作られているのが普通です．ところが，穴埋め形式だと，答えが整数か否かわかってしまうなど，本来問題が解けるのに必要な条件よりも過剰なヒントが与えられていることが多いのです．正統的な数学の問題から見れば，こういった穴埋め形式の問題は欠陥問題といってもよいでしょう．この“穴”を逆手にとって，穴に隠された有益な情報などを活用しようということです．

たとえば，方程式の解を求めるとき空欄に 1 桁の整数が入ることが前提なら，いざとなったら，10 通りのしらみつぶしで答えが分かります．また，答えの空欄が 1 つだけなら答えは 1 つだけが前提と考えてよいので，答えを「見つける」だけでよく，それ以外の解がないことを証明する必要はありません．

また，記述式なら「多項式を求めよ」となる設問でも，穴埋め式なら，例えば「$\boxed{}\,x+\boxed{}$」とするしかなく，1 次式ということも分かっていることになるのです．

本書では，各分野で穴埋め形式の問題でよく出題されるテーマを中心に，まず身につけたい方法を解説したうえで，時間短縮に有効な手法や公式などを紹介していくことにします．

本書の構成

① **タクティクス編**（Tactics（方策）を練れ）

問題の解法がすぐに思い浮かばなかったり，計算が大変そうだったりする場合にはどうするのか．飛ばして他の問題に行くのか．それとも粘ってみるのか．

時間がなくて当てずっぽうでマークしなければならないとき，どうマークすれば当たる確率が高くなるのか．

試験場でこれらについて迷っている暇はない．

この編を読んで，このような実際に試験場で直面するであろう選択肢に迷わないように，確固たる方針をもって試験に臨もう．

② **実践ツール編**（Tool（道具）を持て）

問題を解くのに必要な基本事項，特別な公式や穴埋めの設問だから生かされる裏ワザ的な解法を，単元別にまとめてある．この編はくり返し読んでほしい．各ポイントにチェック欄 □ を設けたので，もう読まなくていいところ，あとでもう一度読んだ方がよいところ，直前にもう一度読んだ方がよいところなどを，自分なりの記号で区別をしておくと効率がよいだろう．数学は暗記科目じゃないと思っている人も，知っていると解く時間が短縮できるなと思った公式は，覚えてしまおう．共通テストのときだけ覚えておいて，終わったら忘れてしまえばよいのだ．

また，各単元の最後には「実践演習」と称し，本書の Tool を最大限に適用した解答例を示した．自分の本番でもこういうふうに満点が取れるんだと，成功を信じて何回も読むことで，ツキを呼び込もう．イメージトレーニングとして使うとよい．

なお，とりあげた問題は，主にセンター試験で出されたものである．

共通テスト必勝マニュアル
数学ⅠA [2025年受験用]

目　次

Tactics編

問題文のどこを読むか

共通テストの問題文は格段に長い．しかも，すべてが解答に必要な情報とは限らない．冒頭から不要な会話が延々と続き，空欄の直前の 1〜2 行に条件が書かれている，なんてこともある．空欄を埋めるのがミッションなのだから，要らないところは飛ばし，時間を節約しよう．具体的には

・まず空欄の近くを読み，何が問題になっているかを把握する

・それに必要な条件をさかのぼって探す

とよいだろう．会話は進行役程度，と考えて基本スルーでいい．重要な条件が書かれていたことはない．ちなみに，会話を含め，ヒントや考え方が書かれていることもあるが，思考のじゃまにしかならないことも少なくない．この程度の問題ではヒントなど必要ない，と思えるくらいに勉強しておこう．

解答順

成績上位層が解答順を考えないといけないようでは試験の趣旨に反するとも言えそうだが，現実には策が必要である．多くの受験生にとって，配点の割に時間がかかる分野はデータの分析だろう．これを後回しにしておく方が失点を減らせる可能性が高い．また，図形の性質の問題では相性が悪いと誘導に乗りにくい．詰まったらデータの分析に移るのがよいだろう．

穴埋め形式の積極的活用

数学の問題というのは，穴埋め形式でなくても解けるように作られているのが普通である．ところが，共通テストの数学では，解答方式が空欄補充になっているので，答えのおおまかな形が与えられてしまったり，答えが整数か否かがわかってしまったりと，本来問題が解けるのに必要な条件よりも過剰なヒントが与えられている場合が多い．まともな数学の問題から見れば，こういった穴埋形式の問題は欠陥問題といってもよいだろう．この“穴”を

マークの記入の仕方

① どのタイミングでマークするのがよいのか

共通テストで解いた答えをどのタイミングでマークシートに転記するのがよいだろうか．全問解いてから，一気にマークを塗りつぶしてしまうのがよいのか，それとも，空欄が分かったごとにひとつひとつマークをつけていく方がよいのか．

お薦めしたいのは，次の方針．

「単元を解き終わるごとにマークし，終了時刻に近くなったら，ひとつの空欄の答えがわかるごとに，マークをしていく．」

単元とは，データの分析，場合の数と確率などのことである．この単元を解き終わるごとに区切りをつけてマークするのが原則だが，単元の中で複数に分かれている場合は，この各問題を終えるごとにマークを付けてもよい．せっかく問題が解けたのに，マークシートに転記しないうちに試験終了になってはもったいない．これを避けるためにまめにマークしていこう．また，何回かに分けた方が転記ミスも少なくなるだろう．

② マークの欄を間違うな

問題用紙にメモした解答をマークシートに転記するとき注意しなければならないことがある．それは，例えば❶[１]，❸の順で解いたとき，❶[２]のマークシートの欄に，❸を解いた答えを続けて記入してしまうようなミスである．また，❶[１]と[２]は，空欄がアから始まる続きの記号になっているので，[１]の最後の方の設問を飛ばして[２]を解いた場合，[１]でマークしてある解答欄の次に続けてマークすると間違った場所にマークしてしまうことになる．各単元の最初の設問では，空欄の記号とマークシートの記号が一致するのを確かめるクセをつけよう．

また，分数で $\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$ に $\dfrac{2}{3}$ を入れるときは，上から，$\dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$ と記号がふってあるので，ア＝2，イ＝3 とマークすることになる．3 分の 2 などと口ずさみながらマークすると，ア＝3，イ＝2 とマークしてしまうこともあるので用心しよう．

§1 数と式，集合と命題

□1　x，y の対称式は，$x+y$，xy を主役に計算せよ．

2 文字 x，y に関する整式 P で x と y を入れ替えたとき，項を並べ替えれば全体として元の式 P と同じになるものを，x，y の対称式という．

x，y の対称式は，必ず $x+y$ と xy で表すことができる．対称式の値を求める際は，$x+y$ と xy を主役に計算すると楽になることが多い．

（1）　$x=\dfrac{\sqrt{3}-\sqrt{2}}{\sqrt{3}+\sqrt{2}}$，$y=\dfrac{\sqrt{3}+\sqrt{2}}{\sqrt{3}-\sqrt{2}}$ であるとき，

$3x^2-5xy+3y^2=$ $\boxed{\text{アイウ}}$ である．

（2）　$x=\dfrac{1}{\sqrt{6}-\sqrt{8}}$，$y=\dfrac{1}{\sqrt{6}+\sqrt{8}}$ のとき，

$x^3-y^3=$ $\boxed{\text{エオカ}}\sqrt{\boxed{\text{キ}}}$ である．

（1）　$x+y=\dfrac{(\sqrt{3}-\sqrt{2})^2+(\sqrt{3}+\sqrt{2})^2}{(\sqrt{3}+\sqrt{2})(\sqrt{3}-\sqrt{2})}=\dfrac{2(3+2)}{3-2}=10$，$xy=1$ により，

$3x^2-5xy+3y^2=3(x+y)^2-11xy=3\times10^2-11=\mathbf{289}$

（2）　$X=-x$，$Y=y$ とおくと，X，Y の対称式に直せる．

$$X+Y=\frac{1}{\sqrt{8}-\sqrt{6}}+\frac{1}{\sqrt{8}+\sqrt{6}}=\frac{(\sqrt{8}+\sqrt{6})+(\sqrt{8}-\sqrt{6})}{(\sqrt{8}-\sqrt{6})(\sqrt{8}+\sqrt{6})}=\frac{2\sqrt{8}}{2}=2\sqrt{2},$$

$$XY=\frac{1}{\sqrt{8}-\sqrt{6}}\cdot\frac{1}{\sqrt{8}+\sqrt{6}}=\frac{1}{8-6}=\frac{1}{2}$$ であるから，

$$x^3-y^3=-(X^3+Y^3)=-\{(X+Y)^3-3XY(X+Y)\}$$
$$=-\left\{(2\sqrt{2})^3-3\cdot\frac{1}{2}\cdot2\sqrt{2}\right\}=\mathbf{-13\sqrt{2}}$$

□2　$\sqrt{5}$ の小数部分は $\sqrt{5}-2$

例えば，「$\sqrt{3}$ の小数部分の 2 乗を求めよ」という際に，$\sqrt{3}$ の小数部分を 0.732… とすると行き詰まってしまう．

$A(>0)$ の小数部分は，$A-$（A の整数部分）

とするのがポイントである．$\sqrt{3}$ の小数部分は，$\sqrt{3} \fallingdotseq 1.732$ であるから，$\sqrt{3}-1$ である．したがって，$\sqrt{3}$ の小数部分の 2 乗は，$(\sqrt{3}-1)^2=4-2\sqrt{3}$ である．

● $\sqrt{}$ の近似値

$\sqrt{2} \fallingdotseq 1.41421356$（一夜一夜に人見頃）

$\sqrt{3} \fallingdotseq 1.7320508$（人並みにおごれや）

$\sqrt{5} \fallingdotseq 2.2360679$（富士山麓オウム鳴く）

$\sqrt{6} \fallingdotseq 2.44949$（似よ，よくよく）

$\sqrt{7} \fallingdotseq 2.64575$（［菜］に虫いない）

$\sqrt{8}=2\sqrt{2} \fallingdotseq 2.82843$（ニヤニヤ読み）

$\sqrt{10} \fallingdotseq 3.1622$（［トリコロールは］三色（みいろ）に並ぶ）

● 分母の有理化

$$\frac{1}{\sqrt{a}\pm\sqrt{b}}=\frac{\sqrt{a}\mp\sqrt{b}}{(\sqrt{a}\pm\sqrt{b})(\sqrt{a}\mp\sqrt{b})}=\frac{\sqrt{a}\mp\sqrt{b}}{a-b} \quad \text{（複号同順）}$$

$\dfrac{2}{\sqrt{3}-1}$ の整数部分を a，小数部分を b とするとき，

$a^2-4ab-b^2=\boxed{\text{ア}}-\boxed{\text{イ}}\sqrt{\boxed{\text{ウ}}}$ である．

まずは分母を有理化して，$\dfrac{2}{\sqrt{3}-1}=\dfrac{2(\sqrt{3}+1)}{(\sqrt{3}-1)(\sqrt{3}+1)}=\sqrt{3}+1$

よって，$a=2$，$b=(\sqrt{3}+1)-a=\sqrt{3}-1$ であるから，

$a^2-4ab-b^2=2^2-4\times2\times(\sqrt{3}-1)-(\sqrt{3}-1)^2=\mathbf{8-6\sqrt{3}}$

実践演習 （目標：20 分で 6 問以上）

次の文中の $\boxed{}$ にあてはまるものを，下の①〜④のうちから選べ．

（1） 整数 n について，n^2 が 12 の倍数であることは，n が 12 の倍数であるための $\boxed{\text{ア}}$．

（2） 自然数 m，n について，m と n がともに 5 の倍数であることは，$m+n$ と mn がともに 5 の倍数であるための $\boxed{\text{イ}}$．

（3） 集合 A，B について，A∪B＝A は A∩B＝B であるための $\boxed{\text{ウ}}$．

（4） 実数 x，y について，$x^2=y^2$ であることは，$x^3=y^3$ であるための $\boxed{\text{エ}}$．

（5） 実数 a，b，c について，$|a+b+c|=|a|+|b|+|c|$ は $ab+bc+ca\geqq 0$ であるための $\boxed{\text{オ}}$．

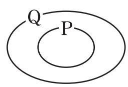
（6） 3 辺の長さが 2，3，x の三角形が存在することは，$|x-3|\leqq 2$ であるための $\boxed{\text{カ}}$．

（7） △ABC において，$\cos A\cos B\cos C>0$ であることは，△ABC が鋭角三角形であるための $\boxed{\text{キ}}$．

（8） 三角形 T の内接円の中心と外接円の中心が一致することは，T が正三角形であるための $\boxed{\text{ク}}$．

① 必要十分条件である
② 必要条件であるが，十分条件ではない
③ 十分条件であるが，必要条件ではない
④ 必要条件でも十分条件でもない

【解答の実況中継】



必要十分の問題か．$p\Longrightarrow q$ が真のとき，右図のようになって，p が十分条件，q は必要条件だったな．

（1） とりあえず条件を言い換えていこう．整数の基本に素因数分解することがあったな．$p:n^2$ が $12=2^2\times 3$ の倍数か．このとき n は素因数 2 と 3 をもつな．n が 2×3 の倍数なら，n^2 は $2^2\times 3^2$ の倍数だ．

ということは，n^2 が $12=2^2\times 3$ の倍数 $\Longleftrightarrow$ n が $2\times 3=6$ の倍数で，P : 6 の倍数，Q : 12 の倍数．P⊃Q だから，答えは②だ．

（2） $p:m$，n がともに 5 の倍数，$q:m+n$，mn がともに 5 の倍数を考えるのか．$p\Longrightarrow q$ は明らかに成り立つから，$q\Longrightarrow p$ が成り立つかどうかが問題だ．q が成り立つとき，mn は 5 の倍数で，5 は素数だから m，n の少なくとも一方は 5 の倍数だ．m が 5 の倍数としよう．

数学Ⅰ・数学A （注）この科目には，選択問題があります。（前ページ参照。）

第１問 （必答問題）（配点　30）

〔1〕 不等式

$$n < 2\sqrt{13} < n + 1 \quad \cdots\cdots ①$$

を満たす整数 n は $\boxed{\text{ア}}$ である。実数 a，b を

$$a = 2\sqrt{13} - \boxed{\text{ア}} \quad \cdots\cdots ②$$

$$b = \frac{1}{a} \quad \cdots\cdots ③$$

で定める。このとき

$$b = \frac{\boxed{\text{イ}} + 2\sqrt{13}}{\boxed{\text{ウ}}} \quad \cdots\cdots ④$$

である。また

$$a^2 - 9b^2 = \boxed{\text{エオカ}}\sqrt{13}$$

である。

（数学Ⅰ・数学A第１問は次ページに続く。）

①から

$$\frac{\boxed{\text{ア}}}{2} < \sqrt{13} < \frac{\boxed{\text{ア}}+1}{2} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots ⑤$$

が成り立つ。

太郎さんと花子さんは，$\sqrt{13}$ について話している。

太郎：⑤から $\sqrt{13}$ のおよその値がわかるけど，小数点以下はよくわからないね。

花子：小数点以下をもう少し詳しく調べることができないかな。

①と④から

$$\frac{m}{\boxed{\text{ウ}}} < b < \frac{m+1}{\boxed{\text{ウ}}}$$

を満たす整数 m は $\boxed{\text{キク}}$ となる。よって，③から

$$\frac{\boxed{\text{ウ}}}{m+1} < a < \frac{\boxed{\text{ウ}}}{m} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots ⑥$$

が成り立つ。

$\sqrt{13}$ の整数部分は $\boxed{\text{ケ}}$ であり，②と⑥を使えば $\sqrt{13}$ の小数第1位の数字は $\boxed{\text{コ}}$ ，小数第2位の数字は $\boxed{\text{サ}}$ であることがわかる。

（数学Ⅰ・数学A第1問は次ページに続く。）

解説と解答

平均点 51.38

❶ ［1］ n は $2\sqrt{13}$ の整数部分，a は $2\sqrt{13}$ の小数部分です．a^2-9b^2 は因数分解した式に値を代入します．②を $\sqrt{13}$ について解いて，近似値を求めます．

［2］ 図 2 で D から直線 BC に下ろした垂線の足を使います．CD は，CD$=x$ とおいて x の方程式を作ります．

解 ［**1**］ $n<2\sqrt{13}<n+1$ ………①

∴ $n^2<52<(n+1)^2$

$7^2<52<8^2$ により，$7<2\sqrt{13}<8$ であるから，$n=\mathbf{7}$ ［2 点］

$a=2\sqrt{13}-7$ ……② であるから，

$$b=\frac{1}{a}=\frac{1}{2\sqrt{13}-7}=\frac{2\sqrt{13}+7}{(2\sqrt{13})^2-7^2}$$

$$=\frac{\mathbf{7+2\sqrt{13}}}{\mathbf{3}}$$ ［2 点］

$a^2-9b^2=(a+3b)(a-3b)$

$=(2\sqrt{13}-7+7+2\sqrt{13})$

$\times(2\sqrt{13}-7-7-2\sqrt{13})$

$=4\sqrt{13}\times(-14)=\mathbf{-56}\sqrt{13}$ ［2 点］

$7<2\sqrt{13}<8$ と $b=\dfrac{7+2\sqrt{13}}{3}$ から

$\dfrac{7+7}{3}<b<\dfrac{7+8}{3}$ ∴ $\dfrac{14}{3}<b<\dfrac{15}{3}$

よって，$m=\mathbf{14}$ ［2 点］

$3^2<13<4^2$ であるから，$\sqrt{13}$ の整数部分は **3** である．②を $\sqrt{13}$ について解くと，$\sqrt{13}=\dfrac{a+7}{2}$ である．$a=\dfrac{1}{b}$ と b の範囲から，

$$\frac{1}{5}<a<\frac{3}{14}$$

$$∴\ \frac{1}{2}\left(\frac{1}{5}+7\right)<\sqrt{13}<\frac{1}{2}\left(\frac{3}{14}+7\right)$$

$$∴\ \frac{18}{5}<\sqrt{13}<\frac{101}{28}$$

∴ $3.6<\sqrt{13}<3.60\cdots$

よって，$\sqrt{13}$ の小数第 1 位は **6**，小数第 2 位は **0** である．（**ケ〜サ**で 2 点）

［**2**］ $\angle$DCP$=\theta$（$0°<\theta<90°$）とおく．

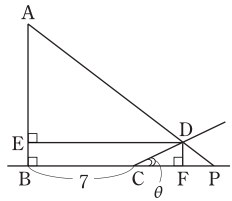
（**シ**） 坂の傾斜が 7%であるから，傾斜角 θ について，$\tan\theta=0.07$ が成り立つ．三角比の表から $\tan 4°=0.0699$，$\tan 5°=0.0875$ であるから，

$\tan 4°<\tan\theta<\tan 5°$

∴ $4°<\theta<5°$ ∴ $n=\mathbf{4}$ ［4 点］

（**ス〜ツ**）

図 2 で D から直線 BC に下ろした垂線の足を F とする．CD$=4$ である．



BE$=$DF

$=$CD$\sin\theta$

$=\mathbf{4}\sin\angle$DCP（**セ**$=$⓪）［4 点］

DE$=$BF$=$BC$+$CF であり，

CF$=$CD$\cos\theta$ であるから，

DE$=\mathbf{7}+\mathbf{4}\cos\angle$DCP（**チ**$=$②）［4 点］

$\angle$ADE$=\angle$APB$=45°$ であるから，

AE$=$DE

AB$=$AE$+$BE$=$DE$+$BE

$=7+4(\cos\theta+\sin\theta)$

$=7+4(0.9976+0.0698)$

$=11.2696$

よって，**ツ**$=$③ ［4 点］

（**テ〜ニ**） CD$=x$ とおく．

AB$=$AE$+$BE …………………①

BE$=$DF$=$CD$\sin\theta=x\sin\theta$

CF$=$CD$\cos\theta=x\cos\theta$

DE$=$BF$=$BC$+$CF$=7+x\cos\theta$

マニュアルで解いてみよう
2024 年 本試験 数ⅠA・実況中継

選択問題は確率と整数を取ることにしよう．

❶ ［1］ □2 から a は $2\sqrt{13}$ の小数部分だ．平方根の計算と有理化でスムーズに答えることができた

［2］ ア tan が 0.07 になる角度を三角比の表から探す．三角比の表を読んだのは，学校の授業以来久しぶり．直角三角形しか出てこないので，設問を埋めるのは易しい．

❷ ［1］ 3 秒後の前と後で場合分けして，△PBQ の面積を計算しておけばよいのだな．最小値を求めるには，□1 の応用で平方完成する．

$0 \leqq t \leqq 3$ のとき，

$\triangle \mathrm{PBQ} = t^2 - 4t + 12 = (t-2)^2 + 8$

$3 \leqq t \leqq 6$ のとき，

$\triangle \mathrm{PBQ} = -t^2 + 10t - 12 = -(t-5)^2 + 13$

最小値・最大値を聞かれなければ，高校入試にありそうな問題だな．

［2］ ヒストグラム・箱ひげ図・散布図の読み取りも穏やかで胸をなでおろす．計算も簡単だ．分散が出なくてよかった．

❸ 問題文に「A，B，C のそれぞれが少なくとも 1 回は取り出される」とあるではないか．これは □7 のアドバイスに従って，余事象の方で計算できそうだな．

（1）（ⅱ） 1 種類しか出ないのは，AAA と BBB の 2 通り．これを，3 回の試行で A か B が出る取り出し方は 2^3 通りから引いて，$2^3-2=6$（通り）．

（ⅲ） 同様に $2^4-2=14$（通り）

（2）（ⅱ） 3 回目までに A，B がそろうのは（1）（ⅱ）から 6 通りだから，3 回目までちょうど 2 種類がそろうのは，

$3\times(2^3-2)=18$（通り）

（ⅲ） 同様に $3\times(2^4-2)=42$（通り）

（3） 誘導にのると，5 回目の試行で A，B，C だけがそろう取り出し方は，

「3 回目で初めて A，B，C がそろい，4 回目，5 回目は A，B，C のいずれかが取り出される場合」と「4 回目で初めて A，B，C がそろい，5 回目は A，B，C のいずれかが取り出される場合」と「5 回目で初めて A，B，C がそろう場合」があり，このもとで 6 回目で初めて D が取り出される場合の数は

$6\times3^2+18\times3+42=150$（通り）

と出るけれど，□7 のアドバイスの通り，余事象を用いてもできるな．

5 回目の試行で A，B，C だけがそろうのは，ちょうど 2 種類しかそろわない場合と 1 種類しかそろわない場合を引いて，

$3^5-3\times(2^5-2)-3=150$（通り）

これを用いて，$\dfrac{150\times4}{4^6}=\dfrac{75}{512}$

❹ タチツ T4 の周期は $4^3=64$（秒）で，

$012_{(4)}=4\times1+2=6$ なので，012 になるのは，$64x+6$（秒）

T3 の周期は $3^3=27$（秒）で，

$012_{(3)}=3\times1+2=5$ なので，012 になるのは，$27y+5$（秒）

同時に 012 になるのは，

$64x+6=27y+5 \qquad 27y-64x=1$

特殊解が互除法を使わないで見つかるとよいのだが，左辺を変形して，

$27(y-2x)-10x=1$

これは $27(y-2x)$ の部分の一の位が

あとがき

共通テストは，問題設定のための文章や誘導のための文章などが長いですから，そこから必要な情報を取り出す時間がかかり，試験時間が厳しいです．問題の主旨が分かったら，素早く答えを埋めたい，あるいは，共通テストレベルを効率よく身につけたい，そんな要求にこたえようというのが本書です．

共通テストレベルを押さえるのに，教科書から始めるのは効率が悪いでしょう．どこが重要で，どんなタイプの問題を押さえて行けばよいのかが書かれていないからです．そこで本書では各単元で押さえておきたいポイント（ツール）を，印象深く，要領よくまとめました．それが，枠で囲った網掛けの部分です．各単元を初めから読んでみて，もしも分からないところが出てきたら教科書などにあたりましょう．最初に教科書に取り組むのではなく，本書から取り組む方が効率的なはずです．

また，共通テストでは，各問の最後の設問は，難易度が高い割に配点がさほど高くないものが出される可能性が高いです．そんな設問では，解答がすぐに思い浮かばない場合や，時間がかかりそうだなっと思った場合には，とりあえず飛ばしてあとに回した方がよいでしょう．あまり意気込むと，ブレーキが利かなくなるものです．柔軟な姿勢で臨みましょう．

本書が皆さんのお役に立つことを願ってやみません．

共通テスト必勝マニュアル
数学ⅠA［2025年受験用］

令和6年 9 月 24 日 第1刷発行

定　価　本体 1,300 円＋税

編　者　東京出版編集部
発行人　黒木憲太郎

印刷所　光陽メディア

発行所　**東京出版**
〒 150-0012　東京都渋谷区広尾 3-12-7

電　話　(03) 3407-3387
振　替　00160-7-5286
https：//www.tokyo-s.jp/

ISBN978-4-88742-281-0